

七戸町ゼロカーボン推進協議会第1回会合 議事要旨

【開催概要】

日時：令和4年10月17日（月）13：30～15：00

場所：七戸町役場 第一・第二会議室

議事：

- (1) 推進協議会について
- (2) ゼロカーボン総合戦略について
- (3) 主要な戦略テーマ等について

【議事要旨】

◎議事（1）：推進協議会について

（省略）

◎議事（2）：ゼロカーボン総合戦略について

- ・ 主要な戦略メニューは、現状の有望な再エネ資源であり、将来的に導入可能性がある項目については必要に応じて追加するという認識か。（本田会長）
⇒環境省の再生可能エネルギーの賦存量調査をもとに整理した。資料だけでは浮かび上がらない資源は、適宜加えていく。（事務局）
- ・ エネルギーのつくる側と使う側の戦略があり、それぞれ整理したい。また、脱炭素先行地域という視点からは、七戸町の特徴を入れることが重要である。（本田会長）
- ・ 町内の再エネ賦存量は、REPOSで把握できるが、データから読み取ることのできない地元の人だからわかる資源もある。実現性は別として、そのような資源もクローズアップできればと思う。（本田会長）
- ・ 天間ダムの小水力発電についてポテンシャル的には落差、水量から120kWレベルであるようだが、需要と供給のバランスを考慮する必要がある。個人的には需要側をどう集めるかが難しいと感じる。（東北電力 平戸委員）
- ・ 水力単体でなくエネルギーミックスを考えられると良い。（本田会長）

◎議題（3）：ゼロカーボン街区について

- ・ ゼロカーボン街区はどの程度、定量的な計算がされているのか。（本田会長）
⇒需要家（電力消費施設）へのアンケートや検討を進めており、今後の検討に反映する方針である。開示できる段階になれば示したい。（事務局）
- ・ ゼロカーボン街区は荒熊内地区にフォーカスされているが、目標は七戸町全体を対象とするのか、特定の地域を対象とするのか。
⇒総合戦略は町全体を対象としている。荒熊内地区は、例えば2030年のカーボンニュートラルを目指す先行的な地域という位置づけである。（事務局）

- ・ ゼロカーボン戦略の取組について、町外（地域外）の資本による再エネ開発をするという方針なのか、町内資本に限定するのか検討が必要。（本田会長）
⇒地域振興の視点からは、町内資本の活用が望ましいが、より良い事業、課題解決という視点から限定するものではない。ただし、地域で経済を循環させ、地域外企業の本社に資金が流れていかないように検討を進めることが大切である。（事務局）

◎議題（3）：バイオガスプラントについて

- ・ 先行事例とする北海道では乳用牛が主なものであり、糞尿混合で湿式発酵になる。一方、七戸町では、肉用牛が対象であり、敷料にもみ殻やおがくずが多用されることから固形物が多くなり、乾式発酵になると思われる。国内では乾式のシステムは少ないと認識している。（植田委員）
⇒肉用牛を対象とした事例は少ないが、実用化している施設もある。視察を通じて実現性のあるシステムを検討したい。県のモデル事業として評価されているのは、事例が少ない肉用牛のモデルを構築し、水平展開できる可能性があるからと認識している。（事務局）
- ・ メタン発酵処理した後の残渣の量は、原料とほぼ同量である。現状でも堆肥の処分に困っており、農地への還元が大きな課題である。（植田委員）
⇒液肥のほか、固形物残渣の処理も課題として考えている。これらを圃場に還元するために圃場の面積の整理等も別途、実施中である。また、再生敷料としての利用も検討していく、これらは事業の実現性を左右する項目である。（事務局）

◎議題（3）：総合戦略におけるその他取組について

- ・ 再エネ導入はコストが高いと認識している。仮にエネルギー料金が、2倍になると経営は成り立たない。補助事業で成り立つとしても、それは、持続可能性の観点から望ましくない。店舗でも節電に取り組んでいるが、天井照明や冷蔵ケースをLEDに替えた場合、数千万円の投資になる。（木村委員）
- ・ 次回以降、具体的な補助施策の例が出せるようにしたい。（事務局）

以上